

街道を歩く

中山道：今須國境一柏原一梓一醒ヶ井

清滝寺と京極家墓所



醒ヶ井宿（柏原宿から1里半）
江戸初期は幕府直轄領、享保9年(1724)
大和郡山藩領。街並は東西8町2間、
西端に彦根藩との境を明確にするために
6軒茶屋が設けられた(今1軒残る)
広重の絵はここ6軒茶屋あたりを描いている
宿には日本武尊、西行縁の三水四石の名勝がある
宿内を流れる地蔵川には淡水魚”ハヨリ”、
水草”ハハモ”が生育している。
(本陣1、脇本陣1、問屋7、旅籠11)

この宿の名所

三水：居醒水、十王水、西行水
四石：腰掛石、鞍掛石、蟹石、影向石(神社境内)

腰掛石：日本武尊が居醒の清水で体を
冷やした時腰掛けたといわれる
鞍掛石：日本武尊が馬の鞍を置いた石
蟹石：雄略天皇の時代に勅使が美濃國
本巢郡の霊泉から持ち帰った大蟹
水をやろうと清水に放したらたちまち
石になったという

西行水(泡子塚)

仁安2年(1167)西行法師が旅の途中ここに
立ち寄り清水で喉を潤したと云う
西行に恋した茶店の娘が西行の呑み残した
お茶の泡を飲んだところ子を身ごもり出産し
たと言う。その後再び訪れた西行がこのことを
聞き「わが子なら元の泡に返れ」といって

”水上は清き流れの醒ヶ井は、
浮世の垢をすすぎてやみん”
と即吟すると子供はたちまちもとの泡になった
という。そこで西行は茶店の傍らに供養塚を建
てたと言う。

明治天皇御駐輦所

明治11年巡行の時役人
江龍家にてご休憩

お葉付き銀杏のあ
了徳寺

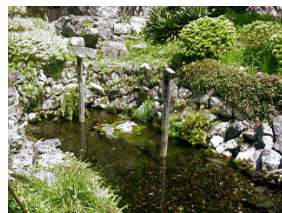
JR醒ヶ井駅

本陣跡

十王水

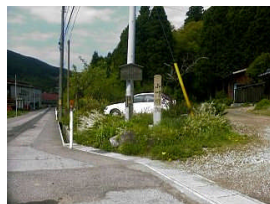
西行水、泡子塚

六軒屋



成菩提院

中世この地方で活躍した近江源氏
京極氏の菩提寺。初代氏信を初め
累代の墓がある。鎌倉室町時代の
宝篋印塔18基が並ぶ
境内の三重塔は江戸時代讃岐丸亀
藩主京極高豊の寄進



この辺り古代東山道の横川駅の
比定地(鳥籠駅と不破の駅の間)
中世には関”梓”の関がおかれた
関の上、下、番の面などの地名残る

小川”梓”の関跡

一里塚跡

番の面遺跡

御茶屋御殿跡

家康、秀忠、家光と3代にわたり
上洛寺に計16回利用したという
家康の頃は土豪西村勘助の家を
利用。元和9年(1623)新築。元禄
2年廃止

柏原宿(今須宿から1里)

江戸より60番目の宿、東西約13町、南北45間
西から仲井町、御茶屋、西町、今川、市場町、宿村、東町の
7町が街道に面していた。幕府直轄地であったが享保9年(1724)
大和郡山藩領となる。宿は幕府道中奉行、領地は郡山藩の管理
と二重構造。問屋が元禄のころまでは12軒、戸後期には6軒の
記録が残る。揖斐川沿いの濃州三湊(舟付、栗笠、烏江)に陸揚
げされた荷を関ヶ原、今須、柏原、醒ヶ井、番場、米原湊まで運ぶ
ために問屋が多かったと思われる
文久元年の皇女和宮降嫁の時南部本陣に泊る
(本陣1、脇本陣1、問屋6、旅籠22)

寂照山円乗寺と称する天台宗の寺院
弘仁6年(815)最澄が開く、天台宗の談義所
となる。信長の宿舎、秀吉の陣所にもなる
天海僧正が住職を勤めたこともある寺
絹本着色浄土曼荼羅図(重文)ほか文化財多

成菩提院

清滝寺京極家墓所

清滝

北畠具行墓

御茶屋御殿跡

一里塚跡

郷宿(旅籠)

近在の庄屋の
指定宿

高札場跡

柏原歴史館

本陣跡

脇本陣跡

亀屋佐京もぐさ店

白清水

照手姫地蔵

楓並木

長久寺

國境

名神高速道路

亀屋佐京もぐさ店

街道名物”伊吹もぐさ”、江戸時代20軒
程の店も今は”亀屋佐京商店”1軒のみ。
創業350年。広重の柏原宿はここを描いている
もぐさ(艾)
蓬の葉を乾かし、揉んで葉の裏の白毛もみ採り
これを晒して枝状にしたもの。これを切って使う

北畠具行墓

具行は後醍醐天皇に仕え、北条鎌倉幕府倒幕
計画に加担し捕らえられ幕府方佐々木導誓に
預けられる。導誓は具行の才能を惜しみ幕府
に助命を願い出るが許されずここで処刑される
宝篋印塔は具行の死後16年、貞和3年(1347)
建てられる



柏原・今須國境の標識

平治の乱で敗走する源義朝を追って
近江側の宿に泊った常葉御前は美濃
側の宿から聞こえてくる声は義朝の
家臣江田源蔵行義と分りその夜語り
明かした云う。義経を追った静御前と
江田広綱の寝物語の説も

寝物語の里

長久寺

ヤマトタケルが伊吹山の神の怒りに遭い
正気を取り戻した清水。また照手姫の
化粧直して清水が白く濁ったとも言われる

照手姫地蔵(笠地蔵)

美濃の青墓の置屋でで水仕事に明け暮れる
照手姫は家の前に留っていた餓鬼阿弥の乗
った土車を小栗判官とも知らず曳いて大津ま
での途中のこの地蔵さんに願いをかけ笠を
ぶらせる

